

みっちゃん、やったあ

中大女子陸上競技部
マネジャー

篠みつ子 (商学部2年)

中央大学女子陸上競技部のマネジャーをしています。

中大は、大学女子駅伝の日本一を決める第35回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(10月29日・仙台市)に2年連続27回目の出場を果たし、長距離メンバー7人が参加。全6区間・38^{キロ}には、悲喜こもごものドラマがありました。

レース開始となる午後0時10分になっても雨はやみません。強い雨の中、全国27チームのランナーがスタートしました。

先頭へ飛び出したのは我らがエースの五島選手(経2)。その後も区間新記録ペースの快走を魅せトップで^{たすき}襷を2区へ。有言実行、区間賞でした。

タオルを持って駆け寄る私に五島選手が私の頬を触り言いました。

「みっちゃん、やったあ」。私はうれしさと五島のそんな姿を見たら、いろんな感情が込み上げて涙がこぼれました。

しかし、マネジャーの私としては区間賞で走った五島の後を走る選手たちが心配でした。トップで襷を

手にした市村選手(経4)は、不安に押しつぶされてしまいそうだったと思うのに、なんと声を掛けていいのか分からず、結局、何も言えませんでした。

コース最長の5区、9・2^{キロ}を走った木下選手(経2)はレース後、悔し涙をずっと流していました。私はまた何も言えず、おつかれさまと声をかけて抱き寄せることしかできませんでした。

結果は19位に終わりました。目標タイムに4分14秒届きませんでした。

全6区間に経験者が5人。今年の目標は8位までのシード権を獲得。さらには上位12位までが出場できる「富士山駅伝」を目指していました。

選手は肩を落としています。雨はまだ降っていました。

マネジャーは難しいです。現役の頃、選手として、ただがむしゃらに走っていた時の方が、何も考えてい



左から齋藤菜月、萩原愛里、古田朱里、木下友梨菜、五島莉乃、太田優紀、丹羽七海、市村萌捺美、出水楓、白井優

なかつたとつくづく気付かされます。

そのとき何を言ってあげたらよかったのか、何をしてあげられたらよかったのか、それは選手一人ひとり違って、答えはいくらでもあると思いますし、何もしないことが一番だったりもします。分からないことだらけです。

ただ、確実に言えることは選手と少しでも多くの時間を過ごすことです。これから多くの時間を部員のみんと過ごし、大会で笑っているみんなの姿がたくさん見ることができたらなと思っています。

【成績】

総合 2時間12分38秒 19位

区	選手名	タイム	区間順位	学部学年
①	五島 莉乃	20:38	1位	経2
②	市村萌捺美	18:55	14位	経4
③	丹羽 七海	23:39	19位	文4
④	古田 朱里	17:46	21位	経1
⑤	木下友梨菜	32:56	22位	経2
⑥	太田 優紀	18:44	20位	文4